

自治体名	静岡県
------	-----

女性の健康づくり対策の概要

静岡県では、県民の健康寿命の延伸と生活の質の向上を図ることを目的に、平成11年度「しずおか健康創造21」、平成13年度「しずおか健康創造21アクションプラン」を策定し、平成22年度を目途とした生活習慣等の改善の到達目標と具体的な戦略を示し、健康づくりを総合的に推進している。また、がん対策推進を図る目的で平成19年度に「静岡県がん対策推進計画」も策定した。特に女性をターゲットとした健康づくり対策は、乳がんや子宮がんの女性特有のがん予防、若い女性やメタボリック予防に関係しての食や運動に係る啓発、同世代のピアカウンセラーによる健康相談などが非常に重要である。

本県では、女性特有のがんや生活習慣病の予防など、女性の健康に関する様々な情報提供や、NPOや高校、大学、企業、医療保険者などと連携して事業の展開を図る。

自治体の特徴

日本のほぼ中央に位置し、太平洋に面する静岡県は、富士山をはじめとする豊かな自然と、熱海、伊東、下田などの有名温泉地、駿河湾、浜名湖、遠州灘など海・湖の幸などに恵まれ、年間を通じて多くの観光客でにぎわっている。

人口構成 (H21. 10. 1 現在)

	総数	男	女
人	3,787,982	1,867,859	1,920,123
割合 (%)	100	49.3	50.7

15歳未満	523,299	268,542	254,757
15～64歳	2,379,808	1,215,354	1,164,454
65歳以上	463,253	221,434	241,819
75歳以上	305,101	128,713	176,388
85歳以上	111,471	30,951	80,520
不詳	5,050	2,865	2,185

女性に関する健康課題

平成20年度に行われた静岡県県民健康基礎調査によると女性の「やせ」の割合は増加している。女性の「やせ」の割合は、国よりも高値である。特に、20歳代の女性が増加傾向にある。また、運動では、一日当たりの歩行数も減少している。食事状況に関しては、一日当たりのエネルギー摂取量の平均も減少している。

女性特有のがん検診受診率(平成20年度)は子宮がん26.1%、乳がん16.8%と低く、目標値の50%には達していない。実施主体である市町も効果的ながん検診受診率向上策を検討している。

平成20年度から開始された特定健診・特定保健指導事業では、市町国保(法定報告)特定健診受診率は男性24.0%、女性32.4%であり、男女とも目標値には達しなかった。女性の内臓脂肪症候群該当者は、県東部が多い傾向であった。

事業費(千円)

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	1,406千円
(2) 中高年期における健康支援事業	1,900千円
(3) 女性のがん支援事業	6,000千円
計	9,422千円

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	思春期から30歳代への健康支援事業
分野	■健康教育 □健康手帳の交付 ■健康相談
事業費(千円)	1,406千円

事業目的

生涯を通じた女性の健康づくりの中で、性差が身体に大きな影響を与えるとともに、ライフサイクルとも強く関係する思春期から30歳代の女性への支援を健康教育、健康相談の支援スキルを用い、女性が持つ特有な健康阻害リスクを理解し、その予防や対応についての知識を持つことで主体的な健康づくりに取組めるよう、意識啓発を目指す。

事業対象

- ア 県内の高校生、大学生、企業に働く若い女性等
- イ 思春期の若者及び関わる人
- ウ 妊娠期～産褥期の女性の支援に関わる人

事業実施体制・展開

ア 意識啓発媒体の作成

目的：若年女性の「やせ」の問題提起と思春期の健康管理の啓発

方法及び展開：適切な栄養摂取の重要性、喫煙の害、規則正しい生活習慣の遵守等を掲載したリーフレットを作成した。若い女性が、自らの健康づくりに対策に取り組めるような具体的かつ平易な内容となっている。作成部数は、100,000部で県内の高校、大学、企業(約300か所)等に配布した。

イ 健康相談の実施

目的：思春期における健康課題としては、性行動の低年齢化からの性感染症への罹患や望まぬ妊娠による人工妊娠中絶など、深刻な健康阻害リスクがある。自らの身体を守る健康づくりや疾病予防の知識をより受け入れやすい手段によって伝えることにより、望まない妊娠及び性感染症を予防することを目的とする。

方法及び展開：同年代のピアカウンセラーによる個別性を重視する健康相談と集団での健康教育を実施した。

ウ 健康相談員の育成

目的：妊娠期から産褥期の女性はホルモン変化により、精神面、身体面の健康等に不安を抱える時期でもある。この時期をサポートする健康相談体制の強化を図る。

方法及び展開：妊娠期から産褥期にかけての特有な健康課題に関する専門的知識の習得を図る研修会を実施した。

事業目標・評価項目 及び その結果

ア 意識啓発媒体

① リーフレットに関するアンケートの実施

媒体への関心について 『表紙を見て面白そうだな』と思った人 84人/108人

内容について 『興味あることがひとつでも書いてあったと思う人』 98人/108人

イ 健康相談

① 参加者へのアンケートの実施 満足度「よかった」89.2%

② ピアエデュケーション実施前と実施後のアンケート調査結果の比較

・『自分の思いを相手に伝える』(コミュニケーションの大切な要素) 「できる」実施前50.6%、実施後72.2%

・『今後のことを考えて今の行動を決めることができるか』 「できる」実施前34.9%、実施後51.5%

・『性感染症の予防法を知っているか』 「知っている」実施前16.4%、実施後76.1%

事業の工夫点

単に健康の知識、女性の身体特性の知識を与える事業とするのではなく、支援を受ける思春期の若者や若い女性に受け入れられる手法、内容であることに配慮した。リーフレットの作成ではこれまでになかった必要な知識（若者向けの適切な栄養摂取の重要性、喫煙の害、規則正しい生活習慣の遵守等）を盛り込みつつ、本県独自で若者が親しみやすいような工夫をしたり、健康相談ではピアカウンセラーを活用し、同じ目線にたった受け入れやすい支援手法を用いた。また、健康相談員の育成においても、女性の健康課題をその生活の中で捉えていく視点に重点をおいた。

事業の効果についての評価・考察

若い世代向けのリーフレットは、親しみやすい媒体の工夫をしたことで、健康課題を意識しにくい年代でも興味をもってもらえるような啓発リーフレットになった。

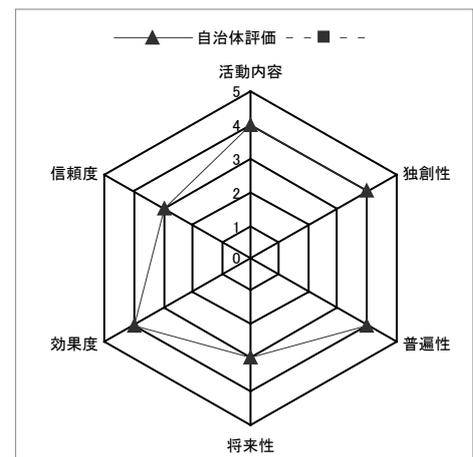
女性の健康支援には、健康づくり対策の側面と思春期から妊娠、出産、育児を通じた母子保健対策の側面がある。このような中で、俯瞰的に対策を評価する生涯を通じた健康支援体制の構築は現在の体制の中では困難なことが多いが、本事業を通してそれぞれの役割分担の中で取組めたことは大変有意義であった。今後も健康づくり、母子保健、疾病対策の連携の中での事業検討を行っていくことが重要である。

今後の課題

健康課題を意識しにくい年代である若い世代への意識啓発は、親しみやすい媒体や方法の工夫や支援に入る前の段階での関係性づくりに他の年代にはない配慮が必要である。今後は取組んでいる対策について広く周知していく工夫が必要と考える。

ホームページ	http://www.pref.shizuoka.jp/
照会先	静岡県健康福祉部医療健康局健康増進課（054-221-3263）疾病対策課（3293） 福祉こども局こども家庭課（054-221-2993）

事業評価	(企画評価委員会で評価予定)	
①活動内容	4	同世代のピアカウンセラーの健康増進を実施した。高校や大学、職域などと連携して普及啓発できた。10万部リーフレットを配布した。
②独創性	4	ピアカウンセラーの健康相談体制は全国でも珍しい。リーフレットの内容も県の実態調査の内容を盛り込んでいる。
③普遍性	4	健康相談などの体制やリーフレットの内容は、他県などの参考となる。
④将来性	3	単独事業のとしての予算がないため、今後は、既存事業の中で実施していく。
⑤効果度	4	アンケートのみの評価しかできなかった。知識の普及の成果はみられた。健康相談の評価も高かった。
⑥信頼度	3	短期間の評価しかできなかった。健康相談を利用した人の、アンケート調査があれば事業効果が明確になった。



(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	「中高年期における健康支援事業」
分野	■知識の提供 □健康相談 ■情報提供
事業費（千円）	1, 900千円

事業目的

性差を考慮した女性の健康づくりの推進にあたり、対象者への健康相談を担うことのできる人材を育成する。
平成21年度から市町が実施する健康増進事業に女性の健康相談及び健康相談教育が追加されたため、健康相談に従事する者を対象とした研修会を開催し、相談の質の向上を図る。

事業対象

女性の健康相談及び健康教育を実施する市町の健康増進事業担当者、医療保険者及び関係団体等の従事者

事業実施体制・展開

- (1) 対象者（女性）への健康相談を担うことができる人材育成のための研修会を実施した。
 <研修目標>①生涯を通じた女性の健康管理の必要性について理解する、②若年期の健康課題である「やせ」について、健康リスクと適切な栄養摂取や身体活動の重要性を理解する、③更年期の女性に多い健康上の悩みに対処するための知識を習得する。
- (ア) 健康相談従事者基礎研修会1：3会場（参加者計171人、保健師、看護師、栄養士、健康組合担当者等）
 【講義1】ライフサイクルからみた女性の健康問題「若い女性のやせの問題と中高年期への影響－更年期をらくに過ごすための生活習慣（運動・栄養）－」
 講師 国立健康・栄養研究所運動ガイドラインプロジェクト プロジェクトリーダー 宮地 元彦 氏
 【講義2】「中高年期（更年期）女性の健康支援－更年期問題の基礎知識－」
 講師 静岡県立大学短期大学 看護学科教授 河端 恵美子 氏
- (イ) 健康相談従事者基礎研修会2：1会場（参加者：625人、静岡県健康づくり食生活推進員等）
 女性の健康を支える地域のボランティアの育成
 【演題】「中高年期の女性の健康づくり 更年期の基礎知識－更年期をらくに過ごすための生活習慣－」
 講師 静岡県立大学短期大学部 看護学科教授 河端 恵美子 氏
- (2) 健康相談従事者用小冊子の配布及び、県民向け啓発リーフレット（更年期の基礎知識）の作成・配布した。
 健康相談及び健康教育等の参考資料及び媒体として、市町・医療保険者、関係団体等の配布。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ①「健康相談従事者基礎研修会1」 *アンケート結果より（回答119人/144人、回収率83%）
 (ア)生涯を通じた女性の健康づくりの必要性についての理解度：89.9%が理解。
 (イ)若年期の課題「やせ」に関して健康リスクと適切な栄養摂取や身体活動の重要性についての理解：89.1%が理解。
 (ウ)女性ホルモンの基礎知識と更年期の健康問題について：74.8%が理解。
- ②「健康相談従事者基礎研修会2」 *アンケート結果より（回答291人、回収率46.6%）
 (ア)生涯を通じた女性の健康づくりの必要性についての理解：88.7%が理解。
 (イ)今回の研修で得た新たな知識（複数回答）：①女性ホルモン(158)、②更年期と生活習慣病(121)、
 ③運動のポイント(106)、④更年期と更年期以降の問題(94)、⑤食事のポイント(76)
 (ウ)今後の活動の中で活かせるか：活かせる(230人、79%) ⇒ ①運動(153)、②食事(129)、
 ③更年期と生活習慣病(95)、④女性ホルモンと更年期(83)、⑤更年期と更年期以降の問題(60)

事業の工夫点

健康相談従事者基礎研修会では、女性を対象に健康相談及び健康教育に従事する市町及び医療保険者、地域医療従事者等、幅広い関係機関に開催周知を行なった。また、研修会場も参加者の利便性を配慮し複数会場で実施。研修内容については、身近な健康問題として、本県の女性の健康課題について、県民健康基礎調査結果を報告し、「痩せ」と「更年期」を主要テーマとし、生涯を通じた女性の健康づくりの重要性の理解を促した。

事業の効果についての評価・考察

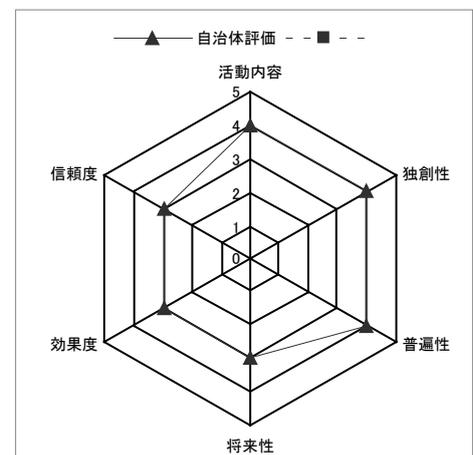
- ① 健康相談従事者基礎研修会については、地域・職域や健康ボランティア（静岡県健康づくり食生活推進員）を対象としたため、地域職域から多くの職種の参加が得ることができた。受講者からは、これまでに、性差を考慮した健康づくりの研修の機会がなく、知識不足であるという声が多く、改めて、性差を考慮した女性の健康づくりを認識していただく機会となった。また、生涯を通じた女性の健康づくりの重要性については、例として「やせ」の問題は、母子保健事業からのアプローチが介護予防につながることや、痩せている若い女性への指導の目安や取組の必要性が理解できた等、受講者は、各機関での指導対象の実態と、市町の保健事業や職場における事業内容や活動を見直す機会となることができたことで、波及効果が期待される。（例 健康保健組合担当者の声：まさに、女性従業員がかかえている問題であるが、男性の健康問題に比べ軽視されがち）
- ② 多くの県民は、更年期に関する知識が不足し、医療費からみても医療機関の多科受診がうかがえることから、更年期に関する教育として本人や家族に対しても、知識の普及、情報提供とともに、健康相談や健康教育の質の向上が重要である。今回、一般県民向けに、ポケットサイズの更年期の基礎知識「知って納得！女性のカラダ 更年期の上手なすごし方」のリーフレットを作成配布できたことにより啓発活動への活用が期待できる。

今後の課題

従来の看護教育等の中では、更年期等について学ぶ機会がなかったこともあり、アンケートからも、従事者への継続的な研修会（各論を学ぶ機会）開催の要望が多くあり、健康増進事業への支援として人材育成の研修会を検討していく。更年期の女性の不定愁訴等の実態把握が不十分なため、今後、健康調査の中で把握していきたい。

ホームページ	http://www.pref.shizuoka.jp
照会先	静岡県健康福祉部医療健康局健康増進課健康増進班 054-221-2779

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4	市町や職域、関係団体等の従事者への研修により、健康相談や健康教育等の質の向上が期待される
②独創性	4	市町の健康増進事業では、女性の健康相談等の取組が消極的であるため人材育成や情報提供による効果が期待できる
③普遍性	4	既存の事業の工夫としては、他県等の参考になる
④将来性	3	単独事業としての予算がないため、今後は既存の事業の中で、検討していく
⑤効果度	3	評価の期間が短く、数値や意識変化等の評価はできなかったが、アンケート調査により知識普及の成果はみられた
⑥信頼度	3	県民に対しての実態調査が未実施であるため、今後の実施する健康調査の中で検討していく



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	女性のがん支援事業
分野	■啓発活動 ■健康教育 □健康相談
事業費（千円）	6,000

事業目的

本県においても増加傾向にある乳がん、子宮がん等の女性のがんについて、検診の受診を勧奨するため、普及啓発を行い、早期発見・早期治療に結びつけ死亡率の減少を目指す。

事業対象

成人女性

事業実施体制・展開

静岡県対がん協会に委託し、がん経験者団体等との協働を推進した。

①講演会

- ア がん征圧月間において、女性のがんの普及啓発をテーマとした講演会を開催
- イ がん征圧月間、女性のがんの普及啓発をテーマとした講演会及び乳がん検診・子宮頸がん検診についてのラジオ広報（1回）・新聞広報を実施（新聞：1回目約71万部、2回目約30万部、タウン紙約10万部）
- ウ がん経験者団体及び協賛企業によるブースによる乳がん検診の受診啓発、自己触診法の啓発及び子宮頸がん検診の受診啓発等を実施。
- エ 講演会参加者数：約800名（約9割が女性）

②街頭キャンペーン・乳がん自己検診法講習会

- ア 年度当初に県内各市町に実施希望調査を行い、過去の実施状況及び地域バランスを考慮し、開催場所・日時を決定
- イ 14箇所中2箇所ではマンモグラフィ検診車の見学会を併せて開催
- ウ 14箇所中2箇所ではがん経験者団体との協働により、講演会（がん経験者団体主催）とのセットで実施
- エ 実施箇所数：14箇所
- オ リーフレット・パンフレット等配布人数：5,660人、乳がん自己検診法体験者数：5,270人

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 乳がん検診を受けたことがない女性に対して、乳がん及び乳がん検診の知識の普及を図ることができた。（アンケート8箇所実施 607人中249人41.4%が未受診）
- ② マンモグラフィ検診車の見学会とセットで実施した乳がん自己検診法講習会では、乳がん検診の未受診者に対して、検診の方法等を直接啓発することができた。（14箇所中2箇所で開催）
- ③ 協働企業から試供品の提供により街頭キャンペーン・乳がん自己検診法講習会への参加者が増加した。
平成20年度1,790人 → 平成21年度5,270人
- ④ 乳がん検診及び子宮がん検診のPRブースにおける保健師による個別指導を行った結果、全員が今後も自宅で実践してみたいと回答があった。
- ⑤ 日程調整の関係で県西部地域での開催ができなかった。（県東部7回、県中部10回、県西部0回）

事業の工夫点

講演会及び街頭キャンペーン・乳がん自己検診法講習会における乳がん検診及び子宮頸がん検診のPRブースは、今まで来場者等が素通りすることが多かったが、今年度は乳がん検診及び子宮頸がん検診もPRブースを体験後、協働企業ブースにおいて試供品の配布を行ったことにより、講演会では150人（同一会場での前年比約2倍）、街頭キャンペーン・乳がん自己検診法講習会でも4,000人（同一会場での前年比約10倍）と参加者が大幅にアップした。

事業の効果についての評価・考察

今年度は、事業の実施方法に工夫を加え、企業の協力を得たことから、参加者の多くが乳がん検診及び子宮がん検診のPRブースの立ち寄り、乳がん及び子宮頸がんの知識の普及・啓発や乳がん自己検診法の啓発が可能となったことは評価できる。しかし、企業の試供品に目当ての来場も否定できないことから、今後の事業の企画に当たっては、参加者が自発的に情報を得て、自ら考えることが可能となる方策を検討する必要がある。

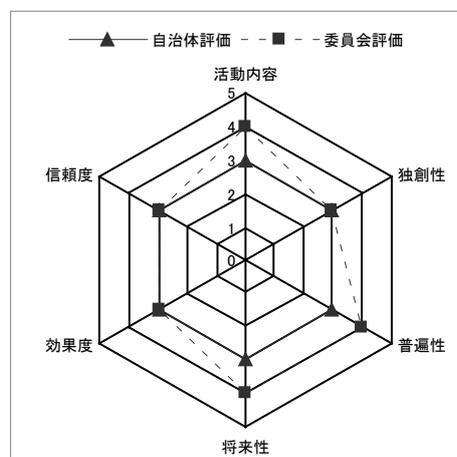
今後の課題

企業からの試供品の提供を受けることができた会場には多くの参加者が集まり、啓発に効果があったことから、企業との協働についても検討することが重要である。

また、平成21年度から女性特有のがん検診推進事業が始まったが、対象年齢や受診日時・場所等のPR方法等の検討が必要である。

ホームページ	http://www.pref.shizuoka.jp/
照会先	静岡県健康福祉部医療健康局疾病対策課疾病対策班(054-221-3393)

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4	企業との連携により、がんに関心ない県民への啓発した点は高く評価できる。
②独創性	3	目新しい内容はないが、工夫を加えている点は評価できる。
③普遍性	4	啓発に協力的な企業を県が市町に紹介するなど、市町でも企業との連携が可能である。
④将来性	4	今後、企業との連携により、多くの人が集まるイベント等において、がんに関心ない県民への啓発が期待できる。
⑤効果度	3	がんに関心ない県民への啓発を行ったが、行動変容を促すまでに至っているか疑問である。
⑥信頼度	3	がんに関心ない県民へのアンケート調査があれば、事業効果がもっと明確になった。



女性のがん（乳がん）検診に関するアンケート調査

1 調査目的

特定健診・特定保健指導の開始に伴い、多くの市町では、特に、健診（検診）の実施主体が異なった被扶養者の受診率の低下が課題となっている。各市町では、受診促進策に向けて取り組んでいるが、その取り組みが、県民の意識や受診行動に対応しているかを検証する一助として、乳がん検診に対する県民（女性）の意識を把握し、がん検診受診促進のための推進方策の資料とする。

2 対象・調査方法

(1) 対象：20歳以上の女性 回答者：602人

イベント（元気応援フェア等）や市町健康まつり会場での乳がん視触診体験者及び*検診車によるマンモグラフィ検診体験者等

検診車によるマンモグラフィ検診体験（疾病対策室 がん検診受診促進企業等連携推進事業）

(2) 調査時期：平成21年10月～11月

(3) 調査方法：健康関連イベント会場来場者への記述式アンケート調査
（イベント会場で配布、記入、回収）

(4) 調査内容：①乳がん検診の受診状況
②乳がん検診を受けなかった理由
③乳がん検診が受診しやすくなる方法

3 女性のがん（乳がん）検診についてアンケート集計結果

(1) アンケート実施数 602人 (人)

会場	下田市	東伊豆町	裾野市	沼津市	芝川町	静岡市 元気応援フェア	静岡市 がん制圧大会	島田市	計
人数	20	16	26	25	25	341	108	41	602

(2) 年齢

年代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	不明
人数	3	44	139	105	102	123	79	7

(3) 結果

ア「これまでに、乳がん検診を受けたことがありますか」

・「ある」350人（58.1%）、 「ない」249人（41.4%）

●乳がん検診を受けたことがある350人の内訳

(ア)「いつ頃受けたか」：1年以内が163人（46.6%）、2年以内が71人（20.3%）、2年以上が116人（33.1%）

(イ)「どこで受けたか」：市町178人（50.9%）、職場検診61人（17.4%）、人間ドック57人（16.3%）、その他42人（12%）、不明12人（4.4%）

●乳がん検診を受けたことがない249人

「これまでに受けなかった理由」：（複数回答）

- ①時間がなかったから89人（35.7%）、
- ②検査に伴い苦痛（痛い、恥ずかしい）や不安があるから50人（20.1%）、
- ③健康に自身があり必要性を感じないから42人（16.9%）、
- ④通知がこなかったから41人（16.5%）、
- ⑤心配な時はいつでも医療機関を受診できるから40人（16.1%）、
- ⑥費用がかかり経済的に負担になるから40人（16.1%）、
- ⑦市町で実施する乳がん検診の対象外だから37人（14.9%）、
- ⑧面倒だから28人（11.2%）、
- ⑨検診を知らなかったから24人（9.6%）、
- ⑩結果が不安なため15人（6.0%）、
- ⑪場所が遠いから4人（1.6%）、←芝川町3人

イ 「どうしたら乳がん検診がもっと受けやすくなると思いますか」(複数回答)

- ①土日などの休日や夜間に受診できる 304 人(50.5%)
- ②1ヶ所で同時に複数の健診(検診)ができる 246 人(40.9%)
- ③かかりつけの医療機関で受診できる 149 人(24.8%)
- ④職場で集団検診を実施する 139 人(23.1%)
- ⑤未受診の場合、個別通知が届く 99 人(16.4%)
- ⑥乳がん等のがんに関する情報提供を受けられる 54 人(9.0%)
- ⑦ホームページなどで検診の日時、場所などいつでも確認できる 50 人(8.3%)

静岡県「女性の健康支援事業」の取り組み



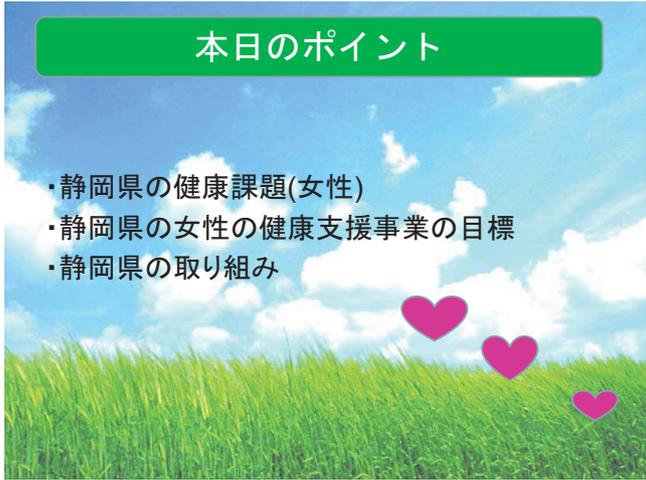
女性の健康課題①

- ・若年層の「やせ」の比率が高い
- ・若い女性の喫煙率

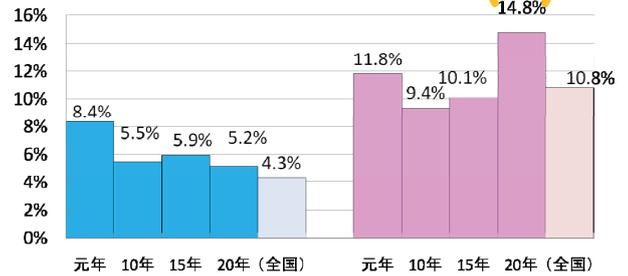


本日のポイント

- ・静岡県の健康課題(女性)
- ・静岡県の女性の健康支援事業の目標
- ・静岡県の取り組み



やせている女性の割合は増加 (県民健康基礎調査)

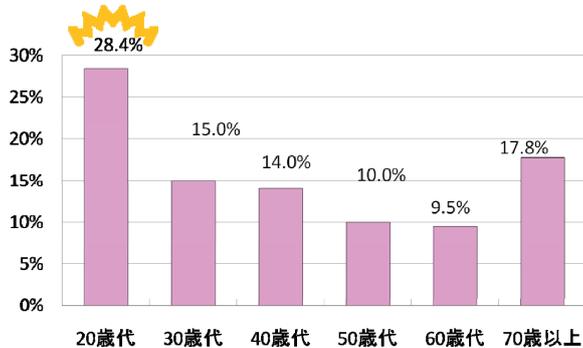


「やせ」の割合の推移(20歳以上)

(全国)は平成20年国民健康・栄養調査

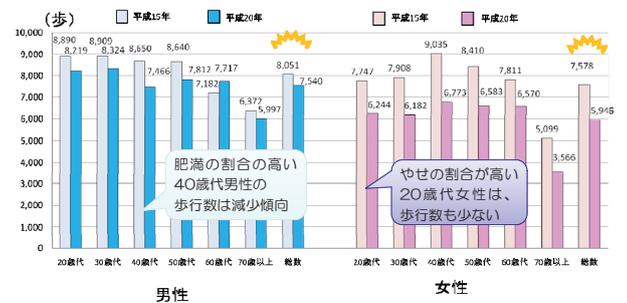
やせは、体力低下、貧血、骨粗鬆症を発症しやすい傾向がみられます。

20歳代女性はやせに注意!!



年代別やせの割合(女性)

運動 歩行数は男女とも各年代において減少傾向



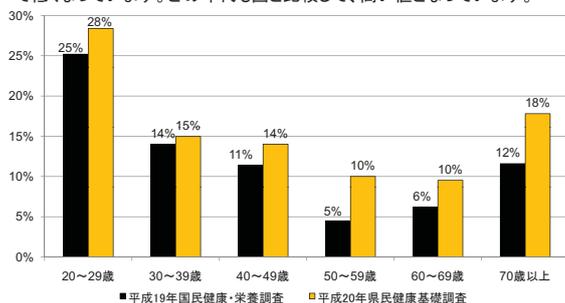
1日あたりの歩行数の平均(総数は20歳以上)

歩行数は、身体を動かして消費するエネルギー量の目安になります。

10分間で約1,000歩と言われています。あと、10分歩きましょう。

女性のやせは国よりも高値

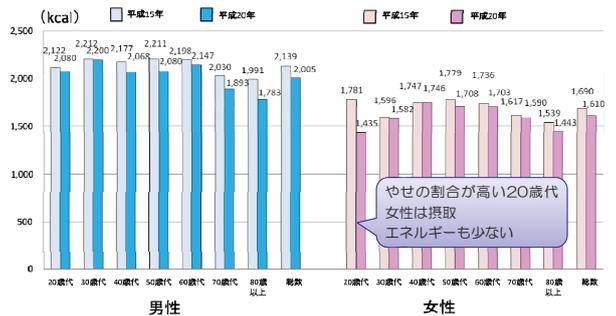
やせ(Body Mass Index(BMI) < 18.5)の割合は全国の調査(平成19年国民健康・栄養調査)と同様の傾向でした。20歳代で高く、50歳代、60歳代で低くなっています。どの年代も国と比較して、高い値となっています。



* BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m)²

判定区分: やせ...BMI < 18.5 普通...18.5 ≤ BMI < 25 肥満...BMI ≥ 25

食生活 食事からとるエネルギーは全体的に減少傾向

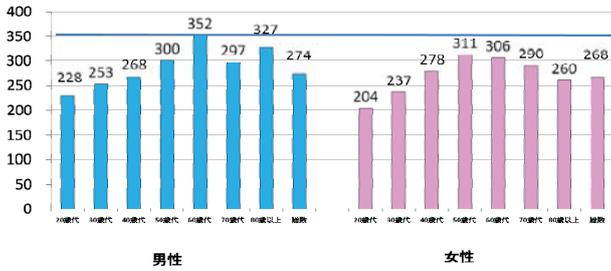


1日あたりのエネルギー摂取量の平均(総数は1歳以上)

食事からとるエネルギーより、身体を動かして消費するエネルギーが少ないと肥満につながります。

男女とも若い年代で野菜の摂取量が少ない

(g)



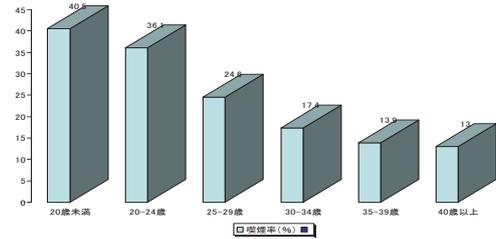
野菜類の摂取量の平均(総数は20歳以上の者)

野菜や果物、精白しない穀類などを中心とする食事はメタボリックシンドロームのリスクが低下するといわれています。

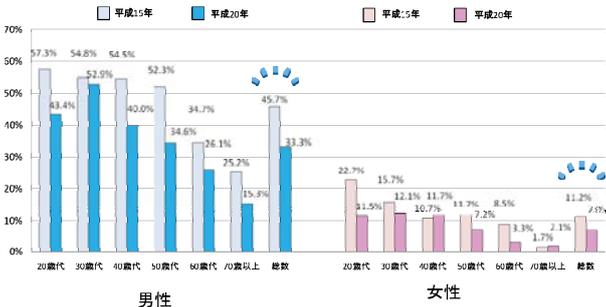
野菜は火を通すと、たくさん食べられます。

若年妊婦ほど、喫煙率は高い。

●平成21年度 妊娠期の喫煙率
妊娠がわかった時に5人に1人がタバコを吸っていました。
(H21年6月 妊婦を対象に市町母子手帳交付時調査
健康増進室実施、回答数 1,521人)



喫煙習慣のある者は減少



喫煙習慣がある者の割合(総数は20歳以上)

健康課題②

- ・がん受診率が低い
- ・10歳代の人工妊娠中絶率
- ・更年期の健康問題に対する理解の低さ
- ・更年期症状の知識不足

がん検診の受診率(20年度)

- ・子宮がん 26.1% (全国 19.4%)
- ・乳がん 16.8% (全国 14.7%)

目標率 50 %

静岡県の取り組み

- ・女性のがん支援事業
- ・思春期から30歳代健康支援事業
- ・中高年期健康支援事業
- ・相談員の育成
- ・実態分析
- 企画評価委員会の設置

静岡県の女性の健康支援事業の目標

目標

県内の女性が健康づくりのための保健行動ができる。

- ・自主的な健康管理
- ・健診(検診)受診率の向上を目指す

女性のがん啓発事業

- ・がん予防講演会の開催
- ・啓発用ポスター・リーフレットの作成配布
- ・街頭キャンペーンの実施
- ・乳がん検診対策
- ・(自己触診法講習会の実施、ビデオ・パネル展示等)

思春期から30歳代健康支援事業

- ・「やせ」、喫煙に関する啓発リーフレットの作成配布、ホームページの作成
- ・県中部、西部へのピアカウンセラー派遣
- ・妊娠期～産褥期の専門健康相談の実施



～産・学・官協働による食育応援弁当を販売！～

本県の成人1人1日あたり「平均野菜摂取量」は、目標値の350gを下回る275gにとどまっていることから、食育月間のテーマを「野菜大好き!!～野菜をいっぱい食べよう～」として、野菜摂取不足の解消に取り組みました。その一環として、産(セブンイレブン・ジャパン)、学(静岡県立大学食品栄養科学部)、官(県)の協働により「野菜っっていらいら!しぞーか弁当」を販売しました。

商品名:「野菜っっていらいら!しぞーか弁当」(税込580円)
 販売期間:平成21年6月18日(火)から15日間の期間限定
 販売店舗:県内のセブンイレブン全店舗
 県内のイトーヨーカドー全店舗
 商品の特長:
 ①野菜使用量は125g、1食として摂りたい十分な野菜量。
 ②主食、主菜、副菜がそろい、栄養のバランスが良い。
 ③県産の食材を多数使用。
 (由比港産海老、清水産水揚げのまぐろ)

商品名:「野菜っっていらいら!しぞーか弁当」 (税込580円)



中高年期の健康支援事業

- ・「更年期障害」の症状や対処法、骨粗鬆症等の啓発リーフレットの作成配布、ホームページの作成
- ・健康相談員の育成



知って納得!女性のカラダ 更年期の上手なすごし方



静岡県

女性の健康週間

- ・目的:女性の健康に関する知識の向上と、女性を取り巻く健康課題に対する社会的関心の喚起を図る。
- ・期間:毎年3月1日～3月8日まで
- ・国及び地方公共団体、関係団体等社会全体が一体となって、各種の啓発事業及び行事を展開する。

(厚生労働省健康局長通知 H20年1月28日付け「女性の健康週間実施要綱」より)



アンケート結果まとめ

【中高年期における健康支援事業】

1「健康相談員の育成」

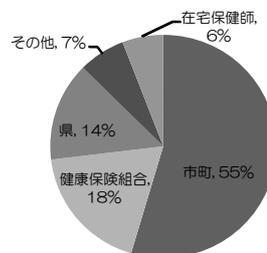
(1) 健康相談従事者基礎研修会 1

(回答：119人／144人、回答率83%)

ア. 受講者

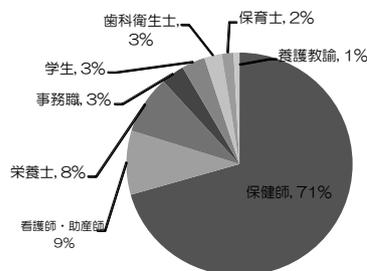
1. 所属

①市町	65人
②県	17人
③在宅保健師	7人
④健康保険組合	22人
⑤その他	8人



2. 職種

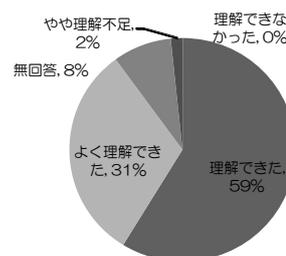
①保健師	84人
②栄養士	10人
③看護師・助産師	11人
④歯科衛生士	3人
⑤保育士	2人
⑥養護教諭	1人
⑦事務職	4人
⑧学生	4人



イ. 研修会（内容）について

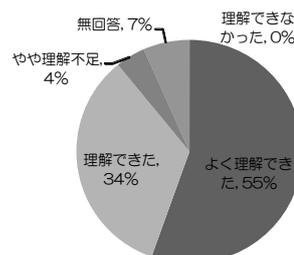
1. 「生涯を通じた女性の健康づくりの必要性」について

①よく理解できた	37人
②理解できた	70人
③やや理解不足	2人
④理解できなかった	0人
⑤無回答	10人



2. 「若年期の女性の健康課題である“やせ”に関して、 健康リスクと適切な栄養摂取や身体活動の重要性」について

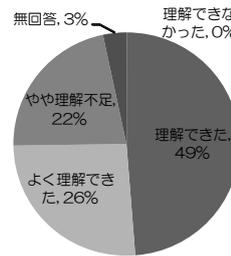
①よく理解できた	66人
②理解できた	40人
③やや理解不足	5人
④理解できなかった	0人
⑤無回答	8人



3. 「更年期の女性に多い健康上の悩み、

加齢に伴う女性ホルモンの基礎知識と更年期の健康問題」について

①よく理解できた	31人
②理解できた	58人
③やや理解不足	26人
④理解できなかった	0人
⑤無回答	4人



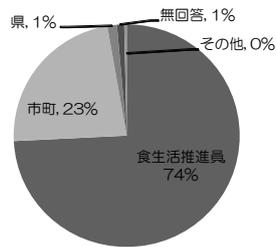
(2) 健康相談従事者基礎研修会 2

(回答：291人／625人、回答率46.6%)

ア. 受講者

1. 所属

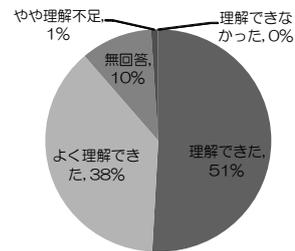
①食生活推進員	216人
②市町	67人
③県	4人
④その他	1人
⑤無回答	3人



イ. 研修会（内容）について

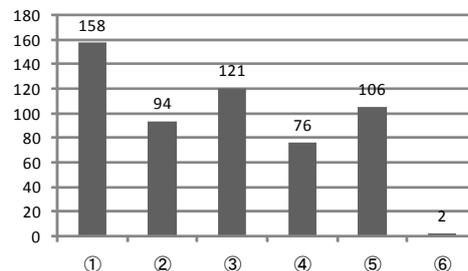
1. 「生涯を通じた女性の健康づくりの必要性」について

①よく理解できた	110人
②理解できた	148人
③やや理解不足	3人
④理解できなかった	0人
⑤無回答	30人



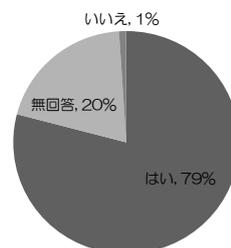
2. 「今回の研修で得た、新たな知識」について（複数回答）

- ①女性ホルモンと更年期
- ②更年期と更年期以降の問題
- ③更年期と生活習慣病
- ④食事のポイント
- ⑤運動のポイント
- ⑥その他



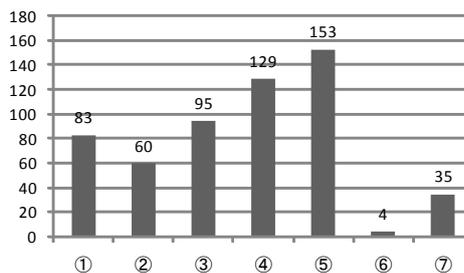
3. 「今後の活動の中で活かせそうですか」

①はい	230人
②いいえ	3人
③無回答	58人



4. 「どのような内容が活かせそうですか」(複数回答)

- ①女性ホルモンと更年期
- ②更年期と更年期以降の問題
- ③更年期と生活習慣病
- ④食事のポイント
- ⑤運動のポイント
- ⑥その他
- ⑦無回答



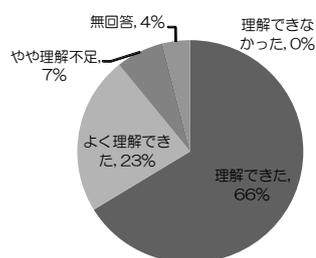
2 「更年期障害」についての啓発

(1) 啓発用リーフレット更年期の基礎知識

「知って納得！女性のカラダ 更年期の上手なすごし方」

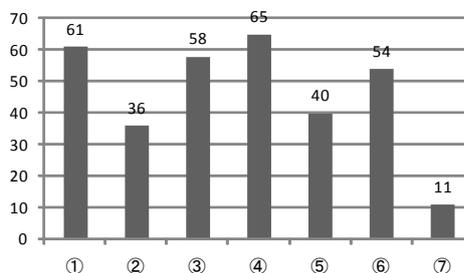
ア. リーフレット(内容)について

①よく理解できた	40人
②理解できた	116人
③やや理解不足	12人
④理解できなかった	0人
⑤無回答	7人



イ. どんな内容が参考になりましたか(複数回答)

- ①女性のカラダとライフサイクル
- ②更年期って何？
- ③更年期の不調はなぜ起こるの？
- ④どんな症状が現れやすいの？
- ⑤更年期度をチェック
- ⑥更年期を上手に乗り切るために
- ⑦その他



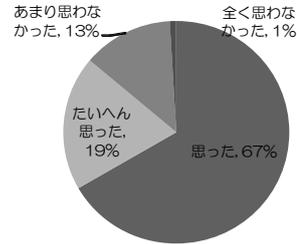
【思春期から 30 歳代における健康支援事業】

(1) 啓発用リーフレット（若い女性の健康課題：やせとたばこ）

「ちょっと考えて！あなたのからだ大切にしてる？」

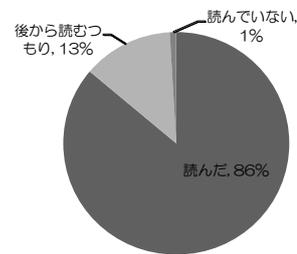
ア. 表紙を見ておもしろそうだなと思いましたか？

①たいへん思った	21人
②思った	72人
③あまり思わなかった	14人
④全く思わなかった	1人



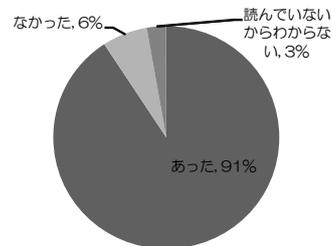
イ. 中を開いて読んでみましたか？

①読んだ	93人
②読んでいない	1人
③後から読むつもり	14人



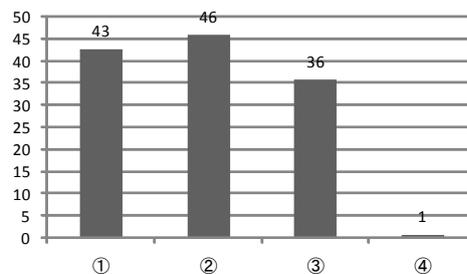
ウ. 興味のあることがひとつでも書いてありましたか？

①あった	98人
②なかった	7人
③読んでいないからわからない	3人



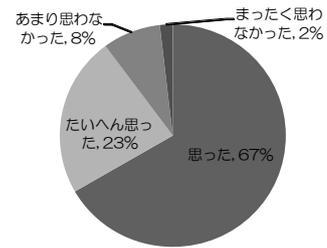
エ. 興味のあることは、どんな項目でしたか？（複数回答）

- ①たばこ
- ②やせ
- ③食事のこと
- ④その他



オ. 自分の生活のことや身体のことについて考えようと思いましたか？

①たいへん思った	25人
②思った	72人
③あまり思わなかった	9人
④まったく思わなかった	2人



カ. お友達に見せてあげたいと思いましたか？

①たいへん思った	13人
②思った	70人
③あまり思わなかった	22人
④まったく思わなかった	3人

